

# 当たり前とは何なのか

中河原 希海

宮城県名取高等学校

私は昨日の晩御飯に納豆ご飯を食べた。

一見、当たり前のように見えるこの文だが、国や時と場合が変わればどう思うだろうか。食糧難民の多い国に生活していたとして、この文を見たら私はきっと「羨ましい」と思うか、「よく食べられたな」と思うだろう。逆に金持ちの多い国に住んでいるとしたらどうだろうか。おそらく、「そんな庶民的な物」とか、「安いものを食べてるのか」と思うはずだろう。戦時中なら「とても貴重なもの」だときっと思うだろう。このように、たった一つの文で色々な思考が出てくるのだ。なのになぜ人は、それが“当たり前”だと言ってしまうのだろうか。

確かに、その場所では当たり前なのかもしれないが、場所が変われば当たり前ではなくなるかもしれない。むしろ、悪い事だと思っている国などがあるかもしれない。そういうモノの見方の違いから争い事や言い争いなどが起きてしまうのではないのだろうか。国単位じゃなくても、人同士でも起こりうる。例えば「納豆を食べた」という簡単な文に対して彼女は「いいな〜」と思い、彼は「そんな不味いものを食べたのか」と思っているとする。「いいな〜」と思うのは当たり前なのか、と言われるとそうではない。逆に、「そんな不味いもの」だとみんなが思っているのかというとそうではないのだ。だがしかし、過半数が「不味いもの」だと認識している国もあるだろう。その国に「いいな〜」と思う彼女がいたらどうだろうか。彼女はその国の人には当たり前じゃないと思われるだろう。

当たり前ではないと人は意見を合わせようと自分の意見を隠してしまう。自分の意見を隠そうとする人を隠しているということに気づけず、自分たちの意見に合わせようとする。“当たり前”というのは単純なようで実は複雑なのだ。

戦争も“モノの見方の違い”から起こり、生まれれば爆弾が当たり前になり銃で撃ち合うことが当たり前になる。残酷な事だが、時が変われば今まで当たり前ではなかったことが当たり前になってしまことだってあるだろう。昨日までは、銃で撃ち合うことが禁止されていたのに今日は許可されているかもしれない。ただ戦争が当たり前になり、特定多数の人を殺してしまうのは当たり前になってはいけない。当たり前という言葉は特に不幸をもたらすことも平和をもたらすことも出来る。戦争を“当たり前”にするのではなく平和を“当たり前”にすれば、ほかのどんな人間同士の価値観のズレや、モノ見方の違いよりも“当たり前”といえる“当たり前”が訪れるのではないのだろうか。

生きているということも当たり前のように見えてではない。病気などで亡くなる人や感染症が流行り消滅してしまう民族だってこの世界では有り得るのが当たり前なのだから。生きているというのは全く当たり前では無い。奇跡である。

私自身も、一つの文で一つの“当たり前”を考えるのではなく、たった一つの文で“当たり前”を色々な方向、視点から客観的に考えられるよう視野を広めて生きていきたいと思っている。